



©2005 石塚真一/小学館

第 295 号 (令和5年(2023 年)3月 15 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

天気・防災情報 <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

信州 山のグレーディング <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/gure-dexingu.html>
を確認し万全の準備で入山を！

長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

3 月 1 週県内では、1 件の死亡遭難を含む 4 件の遭難が発生しました。登山中の滑落、バックカントリーエリアでの遭難等、県内各地で遭難が相次いでいます。

六百山での遭難は、当初の計画では霞沢岳を日帰りで行き帰る予定で入山したものの、予定よりも早く登頂したため、計画とは異なるルートで下山したところ、日没となり行動不能となったものです。日帰り登山で入山していたため、食料や防寒着等は最低限しか携帯していませんでした。幸い天候も良く、位置が正確に判明していたため、翌日ヘリコプターで無事に救助することができました。しかし、万が一、悪天候や樹林帯であったり、電波が通じず救助を要請することができなければ、救助隊が到着するまでに数日間バークをせざるを得ないことも考えられます。

また、バックカントリー遭難は、本年に入り既に 13 件発生しています。

遭難の態様としては、道迷い 5 件、転倒 2 件、技量不足 1 件、立木への衝突 1 件等、遭難者の技量不足や不注意によるものが散見されます。滑走中にスピードコントロールができず、立木へ衝突、崖や沢へ転落のほか、ホワイトアウトによる道迷い等、バックカントリー滑走には、様々なリスクを伴います。バックカントリーエリアに出る際は、これらのリスクを確認するとともに、必ず雪崩対策装備を携帯しましょう。

3 月 2 週県内では、3 件の遭難が発生し、いずれも滑落や転倒によるものでした。八ヶ岳連峰や北アルプスでの遭難が相次いでいます。

3 月は春の陽気とともに、山中では寒暖差が大きくなるため、稜線付近は岩と氷雪が混在したコンディションとなり、滑落や転倒のリスクが非常に高くなっています。このような場所での滑落や転倒は、すぐに停止することができなければ、致命的な遭難となります。アイゼンやピッケルを駆使した確実な雪上技術が求められます。「少くも大丈夫。」という過信が遭難に繋がります。危険箇所の通過には積極的にロープを使用するなど、安全を第一に考えた行動をしましょう。

これから春に向けて標高の高い山域でも日中の気温がますます高くなります。それに伴い融雪が進むなど積雪が不安定になる傾向にあり、積雪量が多い場所では、雪崩や雪庇崩壊のリスクが高まります。

登山やバックカントリースキー、スノーボードの入山の際には、雪崩対策装備の携帯はもちろんのこと、入山前の天候状況や当日の積雪状態を確認し、無理のない安全な行動を心掛けてください。

発生状況

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
2月28日	北アルプス 六百山	男	35	無事救出	その他	単独で霞沢岳を經由して六百山山頂から下山中、日没等により行動不能
27日、単独で北アルプス霞沢岳を經由して六百山に入山した男性(35歳)が、日没により行動不能となり、一晩ビバークしたものの自力下山できなくなる山岳遭難が発生し、28日、富山県防災ヘリが出動して救助しました。						
3月3日	北アルプス 西穂高岳	女	43	無事救出	滑落	2人パーティで新穂高ロープウェイから西穂高岳に向けて登山中、雪庇を踏み抜き、滑落
3日、2人パーティで西穂高岳に入山した宮城県居住の女性(43歳)が、新穂高ロープウェイから西穂高岳山頂に向けて登山中にバランスを崩して雪庇を踏み抜き、約150メートル滑落し、行動不能となる山岳遭難が発生しました。女性からの救助要請を受け、岐阜県警ヘリで救助しました。						
3月4日	ハケ岳連峰 赤岳	男	70	死亡	滑落	単独で赤岳から地蔵尾根を下山中、滑落
4日、単独でハケ岳連峰赤岳に入山した東京都居住の男性(70歳)が、地蔵尾根を下山中に滑落して行動不能となる山岳遭難が発生し、山梨県消防防災ヘリで救助しましたが、死亡が確認されました。						
3月5日	斑尾山	男	32	負傷	その他	2人パーティでバックカントリーを滑走中、立木に衝突し、負傷
5日、スキー場管理区域外の斑尾山山林内をバックカントリースキーで滑走中に立木に衝突・負傷し、行動不能となった男性(32歳)を、民間山岳ガイド、飯山警察署員、県警山岳遭難救助隊員、岳北消防署員、岳南消防署員で救助しました。						
3月8日	ハケ岳連峰 赤岳	女	46	負傷	滑落	8人パーティで中山乗越付近を雪上訓練中、スリップし、滑落、負傷
8日、8人パーティで、ハケ岳連峰中山乗越に入山した女性(46歳)が、雪上訓練中にスリップし、滑落・負傷する山岳遭難が発生しました。茅野警察署山岳遭難救助隊員及び諏訪地区山岳遭難防止対策協会救助隊員が出動して、岐阜県警ヘリで救助しました。						
3月9日	北アルプス 八方尾根	男	55	負傷	転倒	7人パーティで八方尾根南側斜面を滑走中、転倒、負傷
9日、7人パーティで、北アルプス八方尾根に入山した男性(55歳)が、南側斜面をスキーで滑走中に転倒、負傷して行動不能となる山岳遭難が発生し、新潟県警のヘリが出動して救助しました。						
3月9日	ハケ岳連峰 赤岳	男	38	負傷	滑落	単独で赤岳主稜を登攀中、足下の岩が剥がれ、滑落、負傷
9日、単独で、ハケ岳連峰赤岳に入山した男性(38歳)が、主稜を登攀中に足元の岩が剥がれて滑落、負傷する山岳遭難が発生し、山梨県消防防災ヘリが出動して救助しました。						

令和5年(2023年)中の山岳遭難発生状況(令和5年(2023年)1月1日～3月12日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
令和5年(2023年)	43	6	2	21	22	51	29
内)単独登山	17	2	0	6	9	17	8
内)バックカントリー	14	3	2	5	9	19	10
令和4年(2022年)	27	5	0	12	17	34	17
前年同期比	+16	+1	+2	+9	+5	+17	+12
内)単独登山	+9	+2	±0	+4	+3	+9	+6
内)バックカントリー	+6	+1	+2	+3	+3	+9	+6

■山域別発生状況(令和5年(2023年)1月1日～3月12日)

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北アルプス	槍穂高	2	4.7%	0	0	1	1	2
	後立山	9	20.9%	2	2	6	3	13
	その他	4	9.3%	0	0	1	3	4
	計	15	34.9%	2	2	8	7	19
中央アルプス	1	2.3%	0	0	1	0	1	
南アルプス	1	2.3%	1	0	0	0	1	
八ヶ岳連峰	15	34.9%	2	0	8	8	18	
その他の山岳	11	25.6%	1	0	4	7	12	
計	43		6	2	21	22	51	

■態様別発生状況(令和5年(2023年)1月1日～3月12日)

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	13	30.2%	2	0	10	1	13
転倒	8	18.6%	0	0	8	0	8
病気	2	4.7%	0	0	0	2	2
道迷い	7	16.3%	0	0	0	8	8
落石	1	2.3%	1	0	0	0	1
雪崩	3	7.0%	3	0	2	1	6
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	4	9.3%	0	0	0	7	7
不明・他	5	11.6%	0	2	1	3	6
計	43		6	2	21	22	51

■男女別・年齢別比率(令和5年(2023年)1月1日～3月12日)

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	0	0	17 43.6%	0	0	0	0	0	4 33.3%	0	21 41.2%
20代	0	0	2	1	3		0	0	0	1	1		4	
30代	3	2	6	3	14		1	0	0	2	3		17	
40代	1	0	2	4	7	14 35.9%	0	0	2	1	3	6 50.0%	10	20 39.2%
50代	0	0	5	2	7		0	0	1	2	3		10	
60代	0	0	0	4	4	8 20.5%	0	0	0	1	1	2 16.7%	5	10 19.6%
70以上	1	0	2	1	4		0	0	1	0	1		5	
計	5	2	17	15	39		1	0	4	7	12		51	
比率	76.5%						23.5%							

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝